

緊急シンポジウム

球磨川から鮎が消える!!

球磨川の急流で育った鮎は、昔から尺鮎と呼ばれ、全国釣り師の羨望の的で、季節になると多くの釣り師が訪れてきました。また、かつて流域には2000人を超える鮎漁師や鮎産業を支える人たちがおり、鮎は流域の経済基盤でした。しかし、今鮎は激減し、今年も10年前と比較しても、10分の1の鮎しか遡上していません。何が原因で鮎はこうもなくなったのか。また、再び鮎を取り戻すことはできるのか。分かっていることは、今は漁業者と流域市民が一体となって考えなければ、球磨川の鮎はいなくなる一方だということです。

球磨川のシンボルである鮎について、みんなで一緒に考える機会になればと、このシンポジウムを企画しました。多くの皆様の参加をお待ちしています。

◆◆◆◆ 内容 ◆◆◆◆

1) 球磨川と鮎についての話題提供

- ① 球磨川って、こんな川
- ② 昔の球磨川は鮎でいっぱいだった
- ③ **緊急報告** 現在、球磨川の鮎に何がおこっているのか

2) 基調講演「鮎を育てる川仕事」

高橋勇夫氏(たかはし河川生物調査事務所代表)

3) パネルディスカッション

「球磨川に鮎をよび戻そう！」



高橋勇夫 (たかはし いさお)

1957年高知県生まれ。長崎大学水産学部卒業。農学博士。1981年から西日本科学技術研究所で水生生物の調査とアユの生態研究に従事。2003年同社を退職し「たかはし河川生物調査研究事務所」を設立。同時に天然アユの資源保全活動を開始。天然アユ保全ネットワーク世話人。著書に『ここまで分かったアユの本』(筑地書館)。趣味は釣りと野菜づくり

問合せ先：永尾（電話 096-389-9810）

参加費：500円（資料代）

主催：川辺川を守りたい女性たちの会

2008年

2月3日(日)

14:00~16:30

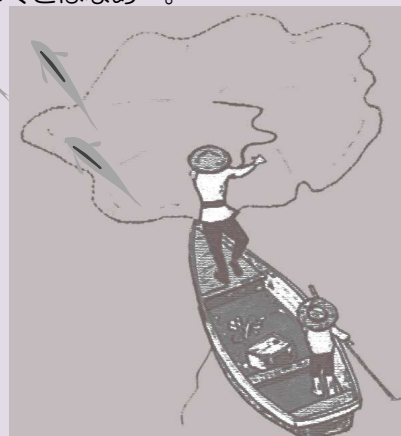
やつしろハーモニーホール
大会議室

八代市新町5番20号

TEL. 0965-53-0033

むかし子供ん頃、うちん親父は球磨川で漁ばしとった。おどんも毎日んごつ、球磨川に行って鮎を採りよった。船ん上から川ば見と、鮎で真っ黒んなって、川底は見えんごたった。船から親父が投網ば打つとしゃがな、鮎で重うして、重うして、上がらんだった。2時間もずっと、船がいっぱいになってなあ・・・そらあ、太かたったですばい。尺鮎のごたった、当たり前で、サバんごたった。6カ月ばかって、月給取りの年分ぐらいた稼ぎよった。そっで、おるも後ば継いで漁師になったとばってん、今は一網に4~5尾も入とらん。もういっぺん、鮎ば取り戻さんばなあ〜。

みんなにも見せたか。春先になと、稚鮎が真っ黒んなって、川を上っていくとばなあ〜。



川辺川を守りたい女性たちの会は、球磨川・川辺川の新鮮なアユを直接消費者に届けたいと、2001年より、球磨川の川漁師さんと協力して、「尺鮎トラスト」を実施しています。また、2004年からは、鮎の稚魚放流を支援するため、鮎の里親制度の活動も続けています。